

令和2年度 大和こども園 (園評価)

項目	内容	評価				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
						A:たいへんよい B:よい C:一部検討を要する D:改善を要する
教育・保育理念	(1)理念や基本方針が職員に周知されているか		○			・コロナ禍の今年度は、保護者が来園する機会が少なかったことを踏まえ、行事等の動画配信時において園長が本園の理念や基本方針をわかりやすく伝えました。今後も引き続き、本園の目指す子ども像を様々な状況に応じて保護者の皆様にわかりやすい内容で案内、発信できますよう努めています。
	(2)理念や基本方針が利用者に周知されているか		○			
	(3)理念や基本方針に基づいた教育保育が行なわれているか		○			
	(4)一人一人の子どもの人格を尊重した教育保育について共通の理解をもっているか		○			
教育保育の計画	(1)社会状況や子どもの実態、地域性を考慮し、必要に応じて教育保育課程の見直しを行っているか		○			・指導計画に沿って子どもたちの体験や活動を振り返り、日々の保育の方向性を明らかにすることの重要性から、今年度、日誌の様式を変更しました。また、日誌を基に1週間の保育を振り返るため、週1回クラスの話し合いを設けました。職員間で保育を共有することにより、見通しを持った活動の計画を立て、次週の保育に繋げることができるようになりました。 ・コロナ禍で行事が制限され、随時活動の変更や見直しを行い「行事のあり方」について再検討する機会となりました。これを機に子ども主体の活動を模索することができました。しかし、行事への保護者参加の可否について園からの一方的な発信となり、保護者の方に不信感を与えてしまうことになりました。最終年である年長組の行事への保護者参加においては、慎重に対応する必要があります。
	(2)指導計画は、乳幼児の心身の発達を踏まえ、入園から修了までの長期的な視野を持って充実した生活が展開できるように配慮し作成されているか		○			
	(3)子どもの生活が豊かになるよう行事を精選し、子どもの発達を踏まえて、その内容や実施の仕方について見直しを行っているか		○			
子どもの発達援助	(1)子ども一人一人の健康状態や発育・発達の状態を把握し、職員間にて共有されているか		○			・子どもが生活や遊びの中で、「これって何?」「食べれるの?」等という好奇心や探求心を持って食に関わる体験を積み重ねられるよう、給食職員と保育教諭が協力し食育活動の創意工夫に努めています。 ・子どもの「やってみたい」が実現できる、子どもが自分で考え、主体的に活動できる、「あそび環境」を作っています。しかし、遊びが継続し展開していけるような環境作りが十分ではありません。常にこどもの興味・関心・探求心に寄り添い、環境の工夫を常に意識していきます。 ・小学校との連携では、年3回行っていた1年生との交流会が、コロナ禍のため行えませんでした。そんな中、当園では小学校までの道のりを実際に歩いてみたり、様子を伝えたりして、子どもたちに小学校を身近に感じてもらえるよう努めてきました。秋の就学時健康診断後は卒園までの日々に見通しを持ち、小学校の生活について話をするなどして、子どもたちが安心して入学することができるよう配慮しています。
	(2)子どもが安定感をもって過ごし、自分の気持ちを安心して表すことができるよう留意しているか		○			
	(3)子どもに相応しい食生活が展開されるように、食事について見直しや改善を行っているか		○			
	(4)子どもが食事を楽しむことができる工夫をしているか		○			
	(5)子どもが主体的に活動できるような、人的・物的環境が整備されているか		○			
	(6)子ども一人一人を受容し、理解を深めて働きかけや援助が行われているか		○			
	(7)健康安全や発達の確保を十分に図り、日々の環境を整えているか		○			
	(8)子どもが自ら周囲の様々な環境と関わり、発達に必要な体験を積み重ねていけるよう努めているか		○			
	(9)子ども自身が自分を肯定する気持ちを育まれていくよう、継続的な信頼関係が築かれているか		○			
	(10)保護者の生活形態を反映した子どもの在園時間の長短、入園時期や登園日数の違いを踏まえ、子ども一人一人の状況に応じた工夫が行われているか		○			
	(11)障がいのある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、教育保育の内容や方法に配慮されているか		○			
	(12)小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、教育保育の内容や方法、保護者とのかかわりに配慮されているか		○			
